

令和6年度 長期留学報告

所属・職名 外国語学部・准教授
氏名 長谷川 文子
留学先 アメリカ West Virginia University
目的 応用言語学研究
期間 令和6年3月27日～令和7年3月28日

留学先:West Virginia University



アメリカ合衆国ウェストバージニア州
モーガンタウンに本拠を置く

設立は1867年で、12以上のカレッジ
・スクールを有し、300以上の専攻を展開

学生数は約25000人

モーガンタウンは、米国でも「ベスト・カレッジ
タウン」の一つに数えられている

滞在先：Morgantown, WV

アメリカ合衆国ウェストバージニア州北部に位置
(ワシントンD.C. から車で約4時間、ピッツバーグからは
約1時間20分)



ウェストバージニア大学(WVU)の本拠地として
知られる学生都市

人口: 約30,000人(都市部)

「全米で住みたい大学街」ランキングで高評価

登山・ハイキング・カヤックなどアウトドアが盛ん

地域に強く根付いたスポーツ文化の中核

担当教員：

Dr. Amy Thompson

Dr. Yilin Liao-Carlson

Dr. Amy Thompson

専門は第二言語習得における個人差と多言語主義で、応用言語学の理論・方法論
科目の教育経験も豊富

Dr. Yilin Liao-Carlson

英語、翻訳学、比較文学を専門的に学んだ多様な学術的背景をもち、専門は中国
語教育、中国文学、中国映画、中国文化、および比較文学を中心とする中国語・中
国文化研究

授業では、上級中国語、中国文学翻訳、中国文化と文明、中国映画など幅広い科目
を担当

留学の目的

第2言語習得における母語能力と自己効力感の影響を明らかにすることを目的とし、これまでに蓄積したデータの整理・分析を行い、論文としてまとめる。

また、英語教育における協同学習の有効性についても、文献調査および理論的検討を通じて理解を深めることを目指す。

活動内容

過去に実施した大学生を対象とする調査データを用いて、2本の研究発表と1本の論文執筆を行った。

研究内容の精緻化に加え、現地の英語教育機関における授業観察や教育方法の比較を通して、ESL環境下での学習者支援についての理解を深めた。



研究成果: ポスター発表

- ポスター発表1(日本語):

日本人研究者交流会、日本学術振興会(JSPS)サンフランシスコ研究連絡センター
第1言語・第2言語における自己効力感と学習の持続性—TOEICスコアの経
時的变化から—

(2024年8月24日)

- ポスター発表2(英語):

Ohio TESOL Conference

Peer-Assisted Learning in Remedial English Grammar: SCAT
Analysis of Japanese University Students

(2024年11月21日)

研究成果 Research Paper

リメディアル英文法授業における「教え合う」協同学習の
実践と効果—自由記述の質的データ分析をもとに—

拓殖大学語学研究, 152, 143-165 (2025年3月)

総括

自己効力感と母語能力が英語学習に及ぼす影響を縦断的に分析し、これらの要因が学習の継続性や成果指標(TOEIC スコア)の変化と関連する可能性を示した。

とりわけ、学習者が自らの能力を信じることの重要性や、母語の基盤が第2言語習得に果たす役割について、より具体的な知見を得ることができた。

また、協同学習(ピア・ラーニング)を取り入れた授業実践では、学生の主体的な学びの促進や学習内容の理解の深化に加えて、学習意欲の向上といった多面的な効果を確認することができた。

おわりに

在外研究および留学期間を通して、多くの方々に温かいご支援をいただきました。現地での出会いや対話は、研究を見つめ直すための大きな示唆を与えてくれました。

また、自身を振り返り、研究に専念する貴重な時間を持つこともできました。さらに、大学の長期休暇には全米各地を旅し、そこで得られた多様な気づきや学びは、今後の研究と人生を支える大きな糧となっています。これらの機会を与え、支えてくださった拓殖大学の皆さんに、心より御礼申し上げます。

